

文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)独立行政法人日本芸術文化振興会

京都観世会十二月例会

令和元年12月15日(日) 午前11時開演 (午前10時開場)



主催 公益社団法人 京都観世会



清経 〈能〉

大江泰正

腰祈 〈狂言〉

野村又三郎

浮舟 〈能〉

橋本擴三郎 彩色

紅葉狩 〈能〉

林宗一郎 鬼揃

会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44 (東山仁王門東入)

お問合せ・お申込み ☎ 075-771-6114

WEBサイトの公演情報からご予約ができます <http://www.kyoto-kanze.jp>

チケットぴあでのご購入ができます Pコード: 490-629

前売券 (1階当日指定席) 6,000円
当日券 (1階当日指定席) 6,500円
学生券 (2階自由席) 3,000円

京都観世会館案内図



- ◆京都観世会館へは
J R京都駅から
市バス[5] [100]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
(乗車時間約30分)
地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」で東西線乗り換え
「東山駅」下車 (乗車時間約20分)
阪急京都河原町駅から
市バス[31] [46] [201] [202] [203] [206]で
「東山仁王門」下車 (乗車時間約15分)
京阪三条駅から
市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
(乗車時間約7分)
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約1分)
J R二条駅から
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約8分)
山科・醍醐方面から
地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約9~17分)
地下鉄東西線「東山駅」から
徒歩約5分
- ◆東隣に有料駐車場(約20台)がございます。

京都観世会十二月例会

後見・地謡

妻河村和晃
平清経 大江泰正
清経 淡津三郎岡

充 大鼓井林清一
小鼓曾和鼓堂

苗森田保美

青木道喜
大江又三郎

谷 弘之助 吉田篤史
河村浩太郎 橋本光史
大江広祐 大江信行
河村和貴 田茂井廣道

腰祈

祖父野村又三郎

柳ノ殿奥津健太郎
太郎冠者野村信朗

休憩二十分

(二時前頃)

里女 橋本擴三郎
浮舟 彩色

旅僧 江崎欽次朗
小鼓 吉阪一郎

前竹市 学

河村晴久
井上裕久

梅田嘉宏 分林道治
橋本忠樹 味方玄
吉田篤史 河村晴道
田茂井廣道 片山伸吾

休憩十五分

龍経

(仕舞) 正キリ
行田キリ

梅田嘉宏
河村博重
橋本光史

(能)

紅葉狩

鬼神林 宗一郎

太刀持原 陸
平藤茂原 大

大鼓谷口正壽
小鼓竹村英敏

太鼓前川光範
苗杉 信太郎

間

俵女 野村又三郎
武内之神 野村信朗

附祝言

(終了予定 四時過頃)

【お知らせ】

「字幕解説サービス」をご利用いただけます。
ご希望の方は専用端末を千円(税込)にて貸出致しますので、事前に事務所にてご予約いただくか、会館入口にて通常通りご希望のお席を当日指定後、字幕受付デスクにてお申込願います。
なお申込用紙にご連絡先等の必要事項をご記入いただき、身分証明書(運転免許証・健康保険証等)のご提示をお願い致します。
専用端末はお帰りの際に受付にて回収させていただきます。

解説

平清経の家来・淡津三郎が、清経が西国で入水自殺したという知らせを聞き、清経の形見・黒髪を持ち、源平の戦の続くさなか、忍び忍びに都へ清経の妻のもとへとやって来る。清経の妻は夫の無事を祈り、ひとり前いで都で待つ。清経は三郎に重たい口を開き、清経入水を知らせる。妻は驚き絶望し、「罰たれたら、また病に倒れたら」というならば、あきらめもつづけ、自ら身を投げるとは、夫の裏切りに恨み言をつらねる。三郎は清経の形見の「髪」の髪を妻に手渡す。見る程に辛くなる形見を、一首の歌と共に妻は手向け返す(氣持ちの中に形見を受け取らず夫につき返したのである。「見る度に心づくしのかみなればうさぎに返す本社の社に」夢になりとも逢いたいものと思ながら、眠る妻の夢枕に清経が現れる。まずは喜ぶ妻。しかしいつまでも添いとけると「髪」をかわしたの自ら命を絶つのは約束やふりだと妻は夫を責める。夫は形見を返したことを責める。清経は入水に至った経緯を語り始める。世の中のうさぎには神もなきものを何折るらん心づくしに。宇佐八幡(戦の神)のお告げをうけ、備前三宅も平家をお見捨てになつたかと絶望し、ひとり入

水したのだった。妻は聞くにたえず、あなたとの「取り」が恨めしいと嘆く。清経はもう言うな、奈落(地獄)もこの世も同じだと断じ、その後、修羅道に堕ちたのだが、入水の時に唱えた十念(念仏)のおかげで仏果を得た(成仏)といふことができたといふ。夫は妻の前から消えて行く。夫と妻の相容れない想いの違い、愛するがゆえの悲劇の「平家物語」の無常観の中に、抒情的に描いた名作。

紅葉狩 鬼神林
戸隠山は全山紅葉に染まる。美しい上岡たちが紅葉狩りに分け入り、木蔭に響き渡る。屏風を立て、酒宴を始める。これらも鹿狩りに分け入った平清経一行は、酒宴の邪魔をすまいと、道に代えて行き過ぎようとする。と、酒宴のまじり見えて、ひととき美しい女性が清経の心にすがり引き留める。その色香に心を奪われた清経は、誘われるまま宴に加わる。盃が重なる美女たちが舞う。夢のような時が過ぎる。いつしか清経は酔い伏してしまう。男山八幡はこの有様を見とおし、末社武内の神を使い立て、神刀を清経に与える。清経は夢から覚める。女たちはいよいよ酒宴もない。雷火が乱れ落ちる。先刻の女たちは鬼となつて清経に襲いかかる。しかし神刀によって、清経はみごとく鬼を退治する。息詰まるほどの鮮やかな色彩に染まる山中で、男は、この世とも思われぬ美女と出会った。誘惑には勝てぬ、男の性(さが)だ。美しい女性ほど、女に魔性を秘めるのか。懺悔的な女の魅力。

お客様へお願い

- ◆特別会員席以外の座席券は、当日午前10時から先着順にお引換えいたします。
- ◆上演中のお出入りはなるべく遠慮ください。
- ◆許可なき写真撮影・録音・録画はお断りいたします。
- ◆場内では携帯電話等の呼出音をお切りください。
- ◆予告なく出演者等に変更がある場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- ◆東隣に有料駐車場がございます。満車の際は岡崎公園市営地下駐車場をご利用ください。

【表紙写真】

「紅葉狩」林喜右衛門
金の星渡辺写真場撮影

次回予告

京都観世会一月例会

令和2年1月12日(日)
午前11時開演

- (能) 翁 観世 清和
- (能) 養老 林 宗一郎
- (狂言) 末広かり 茂山七五三
- (能) 東北 片山 伸吾
- (能) 春日龍神 宮本 茂樹